



「地域コミュニティ活性化ビジョン」を発表した青森公立大の学生たち

「村民大会の復活」提案

風間 浦

風間浦村と青森公立大が昨年連携して行った「地域コミュニティ実態調査」の結果がまとまり、このほど、学生が村を訪れ「地域コミュニティ活性化ビジョン」を発表した。報告会には、

「地域コミュニティ活性化へ」

青公大生が調査結果発表

富岡宏村長や自治会、婦人会の関係者が出席。学生の提案の一つ「村民大会の復活」に多くの人が期待を寄せた。

実態調査は昨年8月、青森公立大の香取薫学長と地域みらい学科の1〜3年生が各公民館を巡り、住民に

暮らしぶりを尋ねて課題を洗い出した。

住民からは「観光資源が豊富」「海産物など自然が豊か」と、自慢できる点が挙がった一方、「村民同士の交流機会が減った」「人口減と後継者不足」「山地や森林の放棄」など懸念も

過去に村で実施していたという村民大会の「復活」は、拠点として小学校の旧校舎を活用し、スポーツ以外にも世代問わず誰でも参加できる競技を取り入れること、伝統芸能披露の場を設けることなど具体的な構想を発表した。

住民からは「企画立案で頻繁に集まれる若者が居なくなり、開催できなくなっていた」「活発な地域交流のために実現してほしい」と歓迎の声が上がった。

発表した同学科新3年生の成田涼花さん(20)は「新年度以降も調査を進め、今の風間浦でできる企画を実現させたい」と意欲を語った。
(鳥谷部知子)

聞かれたという。

学生は解決策として①村民大会(スポーツ大会や文化芸能披露の場)の開催②PR動画作成や会員制交流サイト(SNS)を利用した情報発信③観光面強化④豊かな自然環境を生かす⑤6次産業化―を提案し

た。